

令和5年度第1回伊勢原市社会福祉審議会 会議録

〔事務局〕 保健福祉部福祉総務課

〔開催日時〕 令和5年11月20日（月曜日）午後6時00分～7時30分

〔開催場所〕 伊勢原市役所 2C・2D会議室

〔出席者〕

（委員） 吉川委員、竹村委員、御領委員、橋本委員、重松委員、杉山委員、石井委員、秋澤委員、橋本委員、早乙女委員、長谷川委員、平田委員、宮崎委員、中村委員、佐伯委員

（事務局） 保健福祉部：土方部長、高橋担当部長  
福祉総務課：小形課長、鈴木係長、古賀主事  
障がい福祉課：平井課長、山田係長  
介護高齢課：石井参事兼課長、栗田担当課長  
健康づくり課：高橋課長、安部主査  
保険年金課：鎮目参事兼課長

〔公開可否〕 公開

〔傍聴者数〕 0人

《審議の経過》

1 伊勢原市社会福祉審議会委員委嘱式

2 あいさつ

3 報告事項

- （1） 第7期障がい者計画・障がい福祉計画及び第3期障がい児福祉計画の策定について【資料1】
- （2） 第2期自殺対策計画の策定について【資料2】
- （3） 第9期伊勢原市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定について【資料3】
- （4） 健康いせはら21（第4期）計画の策定について【資料4】
- （5） 伊勢原市国民健康保険データヘルス計画・第4期特定健康診査等実施計画の策定について【資料5】

4 その他

※ 委員からの主な意見・質疑応答は別紙のとおり

※ 次回は令和6年2月頃を目途に開催予定

(1) 第7期障がい者計画・障がい福祉計画及び第3期障がい児福祉計画の策定について【資料1】

## 【質疑応答】

質問	回答
<p>現行計画では基本目標が4つだったが、新計画(案)では6つになっており、内容も変更があるようだが、元になっている国の計画が変更になったから、それに合わせたということか。</p>	<p>国の計画に基づき、表記の仕方を整理した。総論としては大きな変更はないが、表現の仕方が変わってきている。</p>
<p>「⑤障害児支援の提供体制の整備等」について、各市町村または各圏域に1か所以上児童発達支援センターを設置することとされているが、ニーズに対して今の施設で充足されているかどうか。今後、それに対応して増設する予定があるかどうか伺いたい。</p>	<p>児童発達支援センターは人口10万人の都市で1か所が目安といわれている。本市では令和元年10月から1か所設置した。現在は定員30名でほぼ満床になっており、重度の方を中心に受け入れをしている。その他に民間の児童発達支援事業所が多く設置されており、民間との連携も考えている。</p> <p>今後、利用者が増えてくるようであれば、複数箇所の設置も検討しなければならないと考えているが、今のところは2か所目の計画はない。</p>
<p>「①施設入所者の地域生活への移行」で掲げられている「地域移行者数：令和4年度末施設入所者数の6%以上」「施設入所者数：令和4年度末の5%以上削減」の目標値について、これまでの実績と目標達成にあたってどのような課題があるのか伺いたい。</p>	<p>現状の施設入所者は87人となっている。施設入所者数の削減については、現行計画では目標を達成できていない。新計画案では現行87人から5人を地域移行して82人とすることを国の基準に沿って目標としているが、現実的には施設入所から退所してグループホームまたは自宅に戻るといった移行者を出すことは非常に厳しい。</p> <p>しかし、神奈川県も含めて地域移行には非常に力を入れており、施設入所者の定員を削減してきているため、地域に移行する方は増えると思われる。その分、重度の方の受け入れ先となるグループホームの増設や、それに対応できる支援員の確保、地域の受け皿をしっかりと作ること等が必要になってくる。</p>

(2) 第2期自殺対策計画の策定について【資料2】

【質疑応答】

質問	回答
基本方針6（自殺者等の名誉及び生活の平穩への配慮）が新設されているようだが、どのような点が見直されたのか。	自死遺族等への対応といった部分でより丁寧な対応をしてきたいと考えている。大きく項目立ててはいないが、この方針を踏まえて施策を展開したいと考えている。
4. 見直しのポイントには「女性に対する支援の強化」が含まれているが、基本施策にはどのように盛り込まれているか。	コロナの影響もあるが、産後うつなど、女性に関する問題はこれまでもあり、「こころの健康づくりの推進」として保健師による相談などを表記している。さらに、「地域における相談窓口の充実」としてDVの相談窓口について追記した。
計画の目標である自殺死亡率について、現状値が平成29年数値よりもかなり悪くなってしまうている。令和9年の目標値は、令和9年単年での数値なのか、令和9年までの平均値なのかを伺いたい。もし現時点でこの数値目標が厳しいのであれば、目標値の見直しを検討することも計画の実現可能性の観点から必要ではないか。	令和9年時点の数値を目標としている。自殺対策計画については、国の目指す方向性に沿って、自殺者数を減らしていきたいという姿勢を示せるように、目標を設定している。現実的には目標に届かないかもしれないが、11人～14人くらいがこれまでの平均値であり、その水準までまずは戻して、さらに減らせるように、ということで目標を設定した。
「自殺対策に係る人材の確保、養成及び資質の向上」とは具体的にはどのような取組なのか。	施設職員や学校の先生など、支援者という立場の人だけでなく、一般市民の方、全ての方がゲートキーパーになり得ると考えている。専門職以外にも、地域の方たちに自殺予防の声かけや気づきなどについて話をさせていただこうと考えている。また、ゲートキーパーの養成講座を通じて、人材の確保や資質の向上につなげたい。

(3) 第9期伊勢原市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定について

【資料3】

【質疑応答】

質問	回答
「基本施策2（1）生きがいづくりや社会参加の推進」について、行政の関与だけでは難しいと思うが、どのように市の中で協力体制を作っていこうと考えているか。	地域には老人クラブや住民主体のミニデイ、ミニサロンなど様々な活動があるので、その支援を行っていききたいと考えている。専門職の関与については、地域の医療関係職、福祉職、リハビリテーション職の支援をいただいで活動しているところもあるので、そのあたりを計画に記載したいと考えている。

<p>「持続可能な介護基盤の整備」について、介護者の担い手が少なくなっているような中で、介護者の育成について何か手立てを講じているか。</p>	<p>介護職の育成については、神奈川県が主体となって各種研修を実施している。市としては、そうした研修に参加しやすいように、参加費用の一部を助成している。</p>
<p>資格を取っても実際に介護の現場に就く人が少ない状況で、国は介護者に対して処遇改善を行うことを打ち出しているが、市はどのように対応するのか。</p>	<p>今回、大きな制度改正が予定されており、その中で介護人材の確保についても国は大きな課題として捉えている。国の施策としては、処遇改善、専門職の方が事務的な仕事の負担が軽減されて介護に専念できるようにすること、介護ロボットの活用といった議論がされている。市としても、介護職の魅力や、やりがいについて現場で働く人の声を紹介する機会を設けたいと考えている。</p>

(4) 健康いせはら 2 1 (第4期) 計画の策定について【資料4】

【質疑応答】

質問	回答
<p>今回は第4期の計画だが、第3期の計画ではどのような課題があったのか。また、伊勢原市の優れた点があれば教えていただきたい。</p>	<p>市民アンケート等で課題を抽出したが、健康について無関心な層が一定数いらっしゃるということがわかっている。例えば、働き盛りで人間ドックを受けたことがない方などが、自分の診断の数値を確認して健康づくりに意識を向けていただくということが課題としてあると考えている。働いていて検診等に参加できない方でも、スマートフォンで参加できる事業も展開している。そういった、健康に関心が薄い人たち引き込み、関心を持っていただくということを重点的に取り組んでいきたい。伊勢原市は医療機関に恵まれており、かかりつけ医を持つことや、疾病予防の取組、各種検診の受診率を上げていくことで、健康寿命の延伸と平均寿命との差の縮小を目指していきたい。</p> <p>伊勢原市は農業者が多く、中小企業、個人事業主も多い。ある程度の規模の事業所だと検診が受けられるが、農業者や個人事業主の方たちは、あまり検診を受けていないということが第3期計画の期間中にわかってきた。保健師や栄養士が事業所を訪ねながら事業を行っているが、第4期計画ではそうした点に重点的に取り組んでいきたいと考えている。</p>

<p>伊勢原市は公民館の調理室があまり充実しておらず、料理教室が出来ないところもある。フレイル予防のアンケートで地域を回って話を伺っていると、地域の中で集まって話をすること、同じ物を一緒に食べること、その満足度は高いと感じている。基本の「食べること」は大事にしてもらいたい。</p>	<p>基本方針の一つとして「生涯を通じた健康的な生活習慣の確立」を掲げ、栄養のことに触れている箇所がある。また、「第4次食育推進計画」という食育を推進するための計画を令和5年度に策定した。</p> <p>市全体の公共施設は老朽化が進んでおり、公民館についても調理室に限らず様々なところに不具合が出ている状況である。市内に色々な公共施設があるので、公共施設マネジメント課という所管課をつくり、計画を定めている。他の施設でも様々な不具合がでており、順番に改修していくということで計画的に取り組んでいるところである。</p>
<p>分室入り口に骨密度などを測定するところがあるが、市役所まで来る必要がある。以前は健康バス測定会というものをやっていたが、なくなってしまった。健康バス測定会は人気があったので復活できないのか。</p>	<p>第3期計画のときには健康バス測定会を自治会単位で回りながら骨密度や体組成等を図るという事業を実施していた。検診の受診率を上げたいということを狙いとしていた。</p> <p>数年間事業を実施したが、アンケートを取ると健康に関心の高い方が出席することが多く、検診は受けているし、健康バス測定会にも参加する、という方が多かった。高齢者は何らかの形で健康づくりに取り組んでおられる方が多く、働き盛りの40代、50代の方に、高齢になったときに重度の疾病を持たないような健康な体を作ってもらいたいということで、第4期計画では農業者や中小事業主の方たちに着目したいと考えている。</p> <p>健康バス測定会という事業自体はなくなったが、要請があれば、栄養士と保健師と日程調整して自治会に出向くということは、やっていきたい。</p>

**【意見】**

・個人事業主の方たちは、妻も一緒に働いているというケースが多いと思うので、そうした女性の検診率の向上にも積極的に取り組んでいただきたい。

(5) 伊勢原市国民健康保険データヘルス計画・第4期特定健康診査等実施計画の策定について【資料5】

【質疑応答】

質問	回答
<p>神奈川県は全国的にも特定健診診査の受診率が低いということで、電車の中で受診を促すような放送をするという取組をしている。伊勢原市の受診率はどのような状況か。また、他の計画との連動性という説明もあったが、例えば健康いせはら21計画とはどのような形で連携が取られているのか。</p>	<p>伊勢原市の健診の受診率は、令和3年度で35.1%、保健指導が9.9%ということで健診については県内で3位、令和4年度には2位に上がっている。令和4年度は新規事業で集団健診などを実施し、速報値で約39%まで上がっている。全国的に見ると神奈川県は最下位であるが、その中でも伊勢原市は全国平均くらいの水準は保っている。</p> <p>健康いせはら21計画においても特定健診を位置づけており、いきいき健診という名称で柔らかく表記している。国民健康保険は40歳から74歳までだが、75歳以上の方についても、いきいき健診という形で一緒に実施している。がん検診等も特定健康診査にプラスして、追加検診という形で実施している。</p> <p>市の健康づくりの計画の中でも、一緒にやっていくということで位置づけをしている。</p>